

---

# スマ×ぶよで絶対に笑ってはいけない旅行24時間

竜斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

スマxぷよで絶対に笑ってはいけない旅行24時間

### 【Nコード】

N4111X

### 【作者名】

竜斗

### 【あらすじ】

スマブラメンバーxぷよぷよメンバーが

絶対に笑ってはいけない旅行24時間に参加することになった・・・。

果たして、この笑いの地獄に耐え切ることができるのか!?

(出演者の扱いが少し酷いので、苦手な人はご注意ください。)

## 出演者紹介（前書き）

まずは、出演者紹介。

## 出演者紹介

出演者

スマブラ

マリオ（よく笑う。性格は能天気。）

ルイーダ（あんまり笑わない。性格は少し陰気。）

スネーク（笑わない？性格は慎重。）

ネス（少し笑う。性格は活発。）

マルス（普通に笑う。性格は慎重。）

ぷよぷよ

アミティ（よく笑う。性格は活発。）

ラフィーナ（よく笑う。性格は高飛車。）

シグ（あんまり笑わない。性格はマイペース。）

レムレス（少し笑う。性格は慎重。）

フェーリ（普通に笑う。性格は陰気。）

全員「よろしくお願いします。」

出演者紹介（後書き）

次回、本編に出演！

## プロローグ(前書き)

バスまでの、プロローグ。

## プロローグ

ある日、スマブラメンバー、ぷよぷよメンバーにこんな招待状が届いた。

マリオ「手紙だな。アホのマリオへ

スマブラ旅館ができました。

ざまーみる。集合場所はバス停だ。今すぐ来

い。

いいから今すぐ来い。マスター

PS、オフロ上がりには耳掃除をすると、湿っ

ている。」

マリオ「何この手紙……。マスターフルボッコしたい気分だよ。」

スマブラ旅館へ続くバス停……。

ガヤガヤ。

なにやら騒がしい。

マリオ「お、ルイーダ、お前も来てたのか。」

ルイーダ「勿論だよ、兄さん。あのアホのマスターから手紙が届いたんだ。」

マリオ「やっぱり……。ん？そこに見かけない5人は誰だ？」

アミティ「アミティだよ。宜しくね！」

ラフィーナ「私はラフィーナ。ま、頑張るですわ。」

シグ「シグだよ。」

レムレス「彗星の魔道士、レムレスさ。宜しくね。」

フェーリ「フェーリよ……。」

マリオ「へへ。」「ちら」「そ宜しく。」



マルス「あ、マリオさん、マスターさんが来ましたよ。」

マリオ「早いな！」

スネーク「バス停でも油断してはならないぞ。」

数分後、マスターとバスが来た。

マスター「よし、お前たちには「絶対に笑ってはいけない旅行2  
4時間」という

企画をやってもらう。」

マリオ「企画かよ!?!」

マスター「さあ、旅行に出かけるぞ。旅行はいっぱいあるからな。」

全員はバスに乗った。

しかし、ここから本当の笑いの地獄が始まる・・・。

## プロローグ（後書き）

次回、バスでの笑いの地獄！

バス内(1) (前書き)

絶対に笑ってはいけない旅行24時間、スタート!!!

## バス内(1)

バス内。

マスター「では、絶対に笑ってはいけない旅行24時間、スタートだ！」

絶対に笑ってはいけない旅行24時間、スタート!!!

ネス「なんだか簡単そうだぜ。」

そのとき、老人がバス内に入ってきた。

なぜかその老人はレムレスの前に着いた。

老人「……(ずっとレムレスを見ている)。」

レムレス「……プツ(笑)「デデーン、「レムレス、アウトー!」

レムレス「はあ!?!だってこのおじさんg(以下略)」

その時金属バットを持った人が来て、レムレスがケツバットで思いつきり殴られた。

バシーン!!!!!!

レムレス「ギャアアアア！」

マスター「笑うところなるから、気をつけてな。」

アミティ「油断してはいけないんだね……。」

その時、バスの扉が閉まり、バスが出発した。

……。

何も、笑いは来ない……？

マルス「笑い、なかなか来ないですね。」

マリオ「まあ、いいんじゃない？笑いが来ないんだったら。」

ネス「？何あれ？」

ネスが後ろ側の窓を見ると、ギャグマンガ日和の聖徳太子が  
高速道路で落とし穴に落ちる光景があった。

聖徳太子「あああああああああああ!!!!!!!!!!」

全員「ははははは、凄い受ける。てか何で聖徳太子いんの。「デデーン、全員、アウトー！」

全員「えええええ!?」バシーン!!!

全員「ギャー」

ルイージ「もう、窓の外は見たくないや……。」

ネス「そうだな……。窓の外に何か映っても、無視しようぜ。」

数分後、「ヘルメス・トリスメギストス停」に着いた。

フェーリ「ヘルメス……。フフフ」デーン、「フェーリ、アウトー!!」

フェーリ「小笑いでも駄目なの!?」バシーン!

フェーリ「いた〜!!」

マスター「とりあえず、笑ったらどの人でもケツをバットで殴られるからな。」

その時、野球少年3人がバス内に入ってきた。

少年A「なあ、久しぶりにポケモンしないか？」

少年B「いいね、やろうぜ！」

少年C「俺も！」

3人はDSを取り出し、ポケモンを交換し合った。

少年A「お前のポケモンのニックネームは何だ？」

少年C「俺のポケモンのニックネームは、アミタイ、スネケツ、マリチヨプ。」

長く読むとアミタイキック、スネークケツ吹き矢、マリ才断罪チヨップだぜ！」

少年A「お前のセンス、めっちゃ受ける！」

アミテイ「酷い！」

スネーク「みんな罰が違うじゃん！」

マリオ「俺だけめっちゃ重いんですけど!？」

デデーン、「アミテイ、スネーク、マリオ、アウトー！」



「アミティ、タイキックー！」

その時、ボクサーがアミティのケツにタイキックをした！

ポコーン！！！！

アミティ「ぎゃあああああ」

「スネーク、ケツ吹き矢ー！」

その時、ケツ吹き矢名人がスネークのケツに回り込み、吹き矢を構えた。

スネーク「ケツ吹き矢って！？ってぎゃあああああ」

「マリオ、断罪チョッパー！」

マリオ「ぎゃああああ、死ぬー！」

その時、河合曾良がマリオに断罪チョップ

(非常に重く、食らった人間は一撃で血反吐を吐く)を繰り出した！

マリオ「ぎよええええええ」

マリオは運良く、生きていた。

マリオ「着くまでに死んでたまるか！」

またバスの扉が閉まり、バスが出発した。

次回に、続く・・・。

バス内(1)(後書き)

次回、バス内(2)!

バス内(2) (前書き)

再び、バス内にて・・・。

## バス内(2)

再び、バス内にて……。

マスター「あと30分でつくぞー。」

ネス「良かった。意外に早いな。」

しかし、笑いの地獄にも耐えらなければならない……。

近くのジジイ「ぶえつくしよん!!!!!!」

ジジイはくしゃみをした途端、入れ歯が飛び、窓を割っていった!

マリオ「ははははは、超ウケる。」デデーン、「マリオ、アウトー  
」!

マリオ「ゲツ!」バシーン!

マリオ「いってええええええ!」

その時、外にいる謎の少年がバスに向かってきた!

少年はバスの窓を突き破りながらジャンプした！

サトシ「ポケモン、ゲットだぜー！……！……！」

アミティ「ぎゃはははははは！……！……！」  
「デデーン、アミティ、アウトー！」

アミティ「しまった！」  
「バシーン！」

アミティ「いたいよー！」

サトシはそのまま向こうの窓を破っていった。

マルス「……。何今の……？」

マスター「よし、そろそろ着くぞー。」

レムレス「……あの、さっきからこのおじさん、ずっとぼくの前に立ってるんですけど？」

ルイージ「……。プツ（笑）  
「デデーン！」  
「ルイージ、アウトー！」

ルイージ「えええええ！？」バシーン！

ルイージ「いたああああ！レムレス！僕を笑わすなよ！」

レムレス「ゴメンゴメン！」

マスター「お、意外に早くつくぞー。お前ら、準備しとけー。」

全員「はい。」

しかし、ここから、本当の笑いの地獄が始まる……。

バス内(2) (後書き)

次回、旅館編！



ホテル内（前書き）

ついに、到着した・・・。

## ホテル内

マスター

「お、着いた！」

前回、旅館内にとまったバス。

マリオ

「おお、結構りっぱな旅館だな」

マルス

「一回泊まってみたかったですよ」

そのとき、黒い車がやってきた。

車の中から出てきたのは……。

ブラックジャック

「ここがスマブラ旅館か……」

何と、あの有名なブラックジャックが現れた！

レムレス、マルス  
「ブラックジャック!?アツハハハハハハ!」デーン、レムレス、  
マルス、アウトー

2人

「えええええ〜!?!?」バシーン

レムレス

「ちくしょー笑って損したわ」

マスター

「ま、とりあえずホテルないに上がるぞ」

全員

「へ〜い」

全員、ホテルロビーに上がった。

受付

「いらっしゃいませ〜」

マスター

「あつ、予約していた者なんですけど」

受付

「あつ、予約の方ですか。少しの間待ってて下さいね〜」

それと同時に、全員ホテルロビーにあるソファに座った。

ネス

「……っっていうか受付が何で八神はやて？」

ネスが指差した所ははやてが受付やっている所を見た。

マリオ

「何である有名なアニメキャラがホテルの受付やってんだよ」

スネーク

「……ププツ」デーン スネーク アウトー

スネーク

「なに〜!?!」バシーン

スネーク

「マリオ!俺等を笑わせるな!!」

マリオ

「サーセン。後、俺トイレいつてくるわ」

スネーク

「あつ、俺も」

ネス

「僕も、トイレ行きたかったんだよ」

ルイーダ

「僕も」

マルス

「ちよつと、我慢してたかな・・・」

マリオ

「多分、この近くにあると思うけど」

男子全員、ホテル内のトイレへと向かった。

ホテル内（後書き）

次回、トイレ編。

ホテル内(2) (前書き)

あの5人達はトイレで・・・。

(今回、過激な表現が含まれています)

## ホテル内(2)

ホテルロビーの男子トイレにて……。

マリオ

「ううう、早くトイレでスッキリしてえぜ」

スネーク

「それから、ぶよぶよの奴等はどうしてんだろ？」

マルス

「多分話し合ってるんじゃないのかな？ま、とりあえずトイレが先だよ」

5人全員、用を足す。

少しの間、お待ち下さい

マリオ

「ふうう、スッキリした……あれっ、ネスは？」

ルイージ

「ああっ、ネスならお腹が痛くてそこのトイレでやってるよ」

スネーク



「いわゆる ピー か・・・」

マルス

「うわっ、この人平気で放送禁止用語言ったよ」

その時、男子トイレに阿部高和が入って来た。

阿部高和

「やらないか？」

4人

「お断りです」

この4人はストレートで断る。

阿部高和

「だが、もう1人この個室にいそくだな。ちょっと失礼するよ」

マリオ

「ちよっ・・・ネス！！早く出て来るんだ！！」

阿部高和は無断でネスが入っている個室トイレに入った。

ネス

「・・・？何ですか貴方は？おいつ、止めて、ウワッ、ウワー！！  
何平気で人に ピー 出してんですか！？」

4人

「・・・」

4人、何故かその場で沈黙し、ネスの無事を祈っている……。

ネス

「……！！喰らえっ、PKフラッシュュ！！」

ドガーン！！！！！！

ネスはPKフラッシュュを阿部高和に放った！！

阿部高和

「ぎゃ〜」

阿部高和は黒焦げになりました

マリオ

「あ……あわわわ……これ笑い所じゃねえよな……（汗）」

マルス

「寧ろ笑えない……（汗）」

その頃、ホテルロビーのソファにて……。

アミティ

「何か凄い音がしたね〜」

フェーリ

「今ネスが『PKフラッシュ！』って言った様な」

レムレス

「気のせいじゃない？」

ネス

「ああ、危なかった……ってこれどうしよう」

ネスは個室トイレから出てくる。

マリオ

「どうしようつつたつて……弁償しかねえよな」

スネーク

「これは俺等の命に関わる事だぜ」

マルス

「？何でだい、スネーク？」

スネーク

「だって……ホラ、あれ……」

その時、清掃員のバルバトスが5人に猛スピードで近づいて来た！！

バルバトス

「ぶるわああああ……！！……貴様等……何トイレぶっ壊しとんじやああああ……！！……」



「気のせいだよ」

アミティ

「っていうかそれよりあの5人は？まだ帰って来てない様だけど」

ラフィーナ

「っていうか、見に行った方が良くないんじゃない？」

フェーリ

「それが確実に良いわよ」

その後、5人はホテルの休憩室で治療を行われ、無事回復した様だ。

後、マスハントイレの弁償をした様だ。

ホテル内(2) (後書き)

次回、自分達の個室編！

ホテル内(3)(前書き)

エレベーターパニック・・・。

### ホテル内(3)

その後、5人達は無事全回復し、ホテルロビーのソファに座った。

マリオ

「ああ、キツかった」

ネス

「もう懲り懲りだよ、こんな企画って」

だが、まだ企画は終わってない。

その時、マスハンが10人の所に歩いて来た。

マスハン

「部屋の準備が出来た。では、受付係の八神はやてさんに着いて来い」

はやて

「ほな、ウチについて来てや」

マリオ

「受付なのに案内係・・・そして関西弁・・・ブブブ(笑)」

フェーリ

「・・・プツ(笑) デーーン マリオ、フェーリ アウトー」

2人

「ゲッ!!!」バシーン!!!



フェーリ

「痛い・・・!!」

はやて

「？」

はやては首をかしげる。

はやて

「何かわからへんけど、ウチに着いてきてや。このエレベーターに乗ってや」

はやては奥行きにあるエレベーターを紹介する。

全員、エレベーター内に乗った。

はやては5階のボタンを押した。

マリオ

「・・・結構順調だな」

アミティ

「だけど、油断して笑っちゃ駄目だよ？」

スネーク

「当たり前だ」

その時、2階に止まり、呪いの館のひろしが入って来た！！

ひろし

「イ、エアアアア！」

その発言と同時にひろし、 GAME OVER

マリオ、アミティ、マルス、レムレス、シグ

「ギャッハッハッハッハ！！！！！！」デデーン マリオ、アミティ、  
マルス、レムレス、シグ アウトー

5人

「マジで〜！？」バシーン

レムレス

「ってか何故呪いの館のひろしが・・・」

その発言と同時に、エレベーターのドアは閉まった。

グーン……。チーン

エレベーターは3階に着いた。

マリオ

「おっ、今回は何も無えんだな」

スネーク

「いや、あれを見る・・・」

マリオ

「？」

マリオが見た先には……。

ティアナ

「死ぬ気でやらなきゃ、強くなんかなれないじゃないですか!！」

シグナム

「!！」

シグナムはティアナの服の衿を掴んだ!

シグナムは北斗神拳をティアナに放つ!!

シグナム

「アータタタタタタタタツタタタタタ!!!!!」

ホアタアタタタタタタタタタアータタタタ!!!!!

アータタタタ!!!!!アータタタ!!!!!ホアタ

「!!!!!!!」

シグナムは止めにティアナを殴り飛ばした!!

全員（はやて以外）

「アッハハハハハッハッハッハハハハ!!!!!」デデ

ン 全員（はやて以外） アウトー

全員（はやて以外）

「ぎゃあ〜!!!!!!!」バシーン

ラフィーナ

「笑って損したわ!!」

マリオ

「シグナムが北斗神拳使えるなんてどう見てもおかしいだろ（笑）  
デーン マリオ アウトー

マリオ

「ちよっ、おまwww」バシーン

マリオ

「これが『絶対に笑っては行けない旅行24時間』かよ……」

その発言と同時に、エレベーターのドアが閉まった。

何とか、5階に着いた様だ。

全員、エレベーターから降りた。

はやて

「ほなら、男子は501号室、女子は502号室に入ってな」

全員、はやてに案内され、自分達の部屋に入った……。

ホテル内(3)(後書き)

次回、男子部屋編！

## ホテル内(4) (前書き)

マスハンの新たな任務が発せられる。

今回、スマブラ組の部屋編！

## ホテル内(4)

はやて

「あつ、間違えた。スマブラメンバーはこちら、ぷよぷよメンバーはこちらの部屋に入って」

再び10人ははやてに再案内され、自分達の部屋に入った。

501号室

マリオ、ルイージ、ネス、スネーク、マルス

マリオ

「ああ、やっとだわ……」

マルス

「やっと部屋で寛げる」

マリオとマルスは部屋のベッドに寝転がる。

ネス

「うわ、今日は晴天だね、海もめっちゃ綺麗だよ」

ネスは海近くの窓から海を見ている。

スネーク

「たまにはこういうのも良いかもな」

スネークは辺りを見渡す。

ルイージ

「ちょっと腹減ったな」

その時、はやてが501号室に入って来た。

はやて

「腹減った？おつまみ持って来たで」

ネス

「あつ、ありがとうございます！」

マリオ

「っていつかお前はなんでも屋か」

5人はおつまみの饅頭を皆で分けて食べる。

はやて

「後、地図持って来たから、多分迷えへんと思うぞ。まずは見てみ」

はやては5人に1つずつ地図を渡す。

マリオ

「・・・おお、なるほど・・・って何コレ？ワロスwww」「デ  
デーン マリオ アウトー」



マリオ

「おまつー!!」バシーン

はやて

「どうしたんや？尻打たれて」

マリオ

「ああ、これ見てみ」

はやて

「？」

はやてはマリオの地図を見る。

はやて

「!?!『ドナルド・マクドナルド』の顔が……ギャツハツハ（笑）  
デデーン はやて アウトー

はやて

「何でウチも?!?!」バシーン

はやて

「あいた〜!!!!!!つてかドナルドの顔が印刷されてんねん!!  
自分も気づけへんかったわ」

マリオ

「普通気づくだろ」

スネーク

「それはそうと、何故はやてもお仕置きを?」

その時、マスハンが501号室へと入室して来た。

マスハン

「え、今回の任務を発表する」

ネス

「突如何だよ、意味分からん」

マルス

「www」デデーン マルス アウトー

マルス

「待ってくれ」バシーン

マスハン

「え、今回の任務は、『リリカルメンバー5人を集める事』。

5人に全て参加の契約をすればバイキングコーナーへ行ける」

スネーク

「ふむ。で、メンバーは誰だ？」

マスハン

「え、メンバー5人の紹介をする。

メンバーは、はやて、スバル、エリオ、シグナム、ヴィータの5人だ」

ルイージ

「えっ？はやても入ってるって事は、もうはやてと契約してるって事？」

マスハン

「そのとおり。じゃ、残りの4人を頑張って集めるよ」

はやて

「リリカルメンバーはこの部屋に泊まるで」

マリオ

「え？じゃあ、はやて、受付の仕事はどうすんだよ？」

はやて

「代理がいるから大丈夫や」

ネス

「良かった・・・」

はやて

「ま、では、よろしくな！」

八神はやて 参加

マスハン

「じゃ〜」

マスハンは501号室から出て行った。

マリオ

「何だこの流れ」

スネーク

「まあまあ、マリオ・・・あつ、本家ではこんな事が勿論あるよな」

ネス

「?何?」

スネーク

「今俺達の近くにあるテーブルの引き出しを開けてみるとかさ?」

マルス

「来た、お決まりのパターン」

はやて

「ほなら、開けてみよか。じゃあ誰から行く?」

> i 3 6 9 8 8 — 4 2 6 0 <

マリオ

「じゃあ一番端のスネークで・・・」

スネーク

「しゃ〜ね〜な〜」

スネークは引き出しをゆっくり開ける。

スネークの引き出しには、ゴミが大量に入っていた。

マリオ

「www」

はやて

「www」

ネス

「ワロスwww」デーン マリオ、はやて、ネス アウトー

マリオ

「おま」バシーン

ネス

「いつて〜!!」

はやて

「気を取り直して・・・次ルイージ行こか」

ルイージ

「次は僕か〜」

マスハンに頼まれた任務を、6人のマリオ、ルイージ、ネス、スネーク、マルス、はやては残りの4人を集める事が出来るのか？

## ホテル内(4) (後書き)

マスハンに頼まれた任務を、6人のマリオ、ルイージ、ネス、スネーク、マルス、はやては残りの4人を集める事が出来るのか？

次回、ぷよぷよ組の部屋編！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4111x/>

---

スマ×ぷよで絶対に笑ってはいけない旅行24時間

2011年12月11日15時46分発行